公文書館

館蔵資料紹介展
秋田を訪れた国目付

平成8年8月25日～9月23日
秋田県公文書館特別展示室

展示によせて

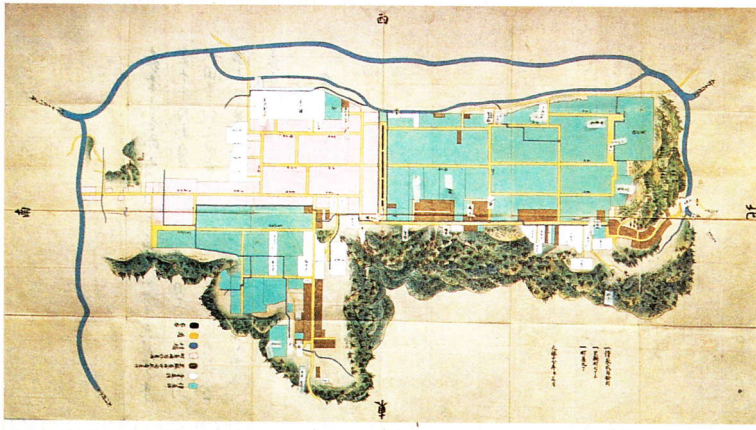
国目付とは江戸幕府が諸藩へ派遣した監察役人のことですが、大名が幼少で家督を相続したばかりの大藩を中心に派遣されました。使番と両番（書院番・小姓組）から一名ずつが任命され、任地に数カ月滞在して、「家中分限帳」や「国絵図」などを提出させたり、領内巡見を行うなどして、対象藩の実情把握につとめたといわれています。

秋田藩には、元禄16年(1703)・宝暦9年(1759)・文政4年(1821)・嘉永2年(1849)の4回派遣されました。慢性的な財政難に苦しむなかで、国目付にどのように応対するかということは、藩の存続に関わる大きな政治課題であったと思われます。

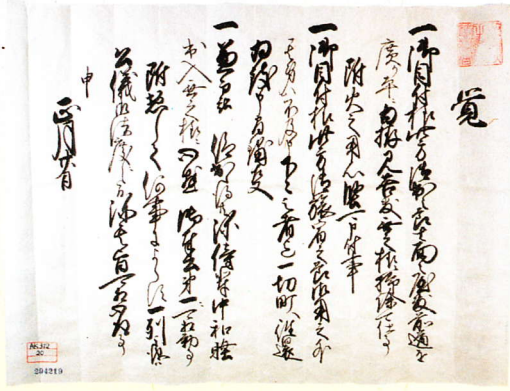
今回の展示では、館蔵資料のうち国目付に関するものの一部を紹介いたします。

元禄の国目付

元禄16年(1703)7月23日、三代藩主佐竹義処は参勤交代で秋田に帰る途中、横手城で死去、四代藩主義格は10歳でした。五代将軍徳川綱吉は、国目付として斎藤治左衛門と戸田三郎兵衛の派遣を命じました。秋田を訪れた最初の国目付は、元禄16年10月から翌年4月まで滞在し、領内の巡見等を行いました。



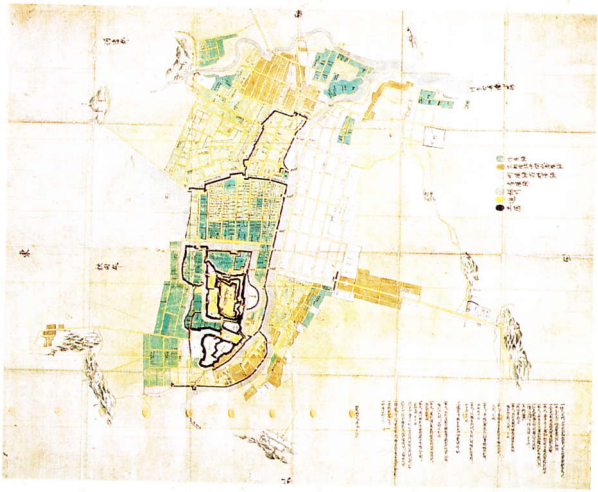
角館内町外町之絵図(県C-94)



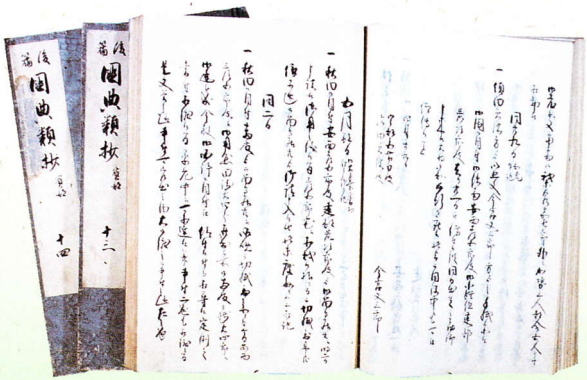
国目付角館巡見ニ付心得形被仰渡(AK312-20)

宝暦の国目付

宝暦８年(1758)３月18日、七代藩主佐竹義明は秋田で死去、八代藩主義敦は11歳でした。九代将軍徳川家重は、国目付として安西彦五郎元維と建部荒治郎広般の派遣を命じました。秋田を訪れた2回目の国目付は、宝暦９年７月から12月まで滞在し、領内の巡見等を行いました。



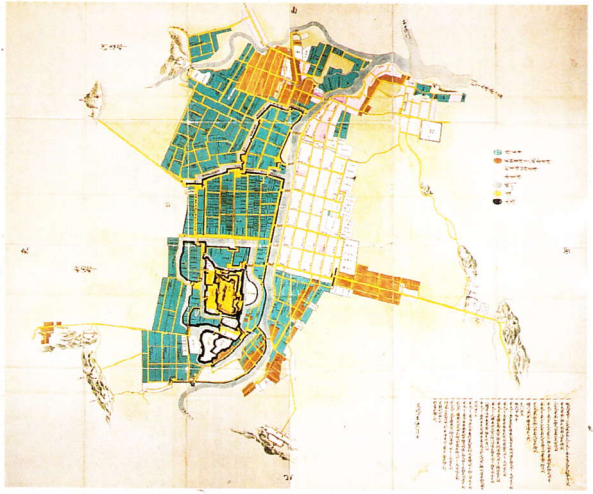
御城下絵図 (県C-599)



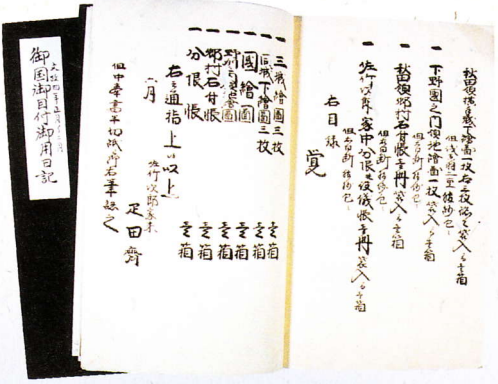
国典類抄　後篇賓部 (AS209-174)

文政の国目付

文化12年(1815)7月8日、九代藩主佐竹義和は秋田で死去、十代藩主義厚はわずかに4歳でした。十一代将軍徳川家斉は国目付として丹羽五左衛門長堅と三浦甚五郎正通を命じましたが、江戸屋敷の火災等により派遣の延期が認められ、秋田を訪れたのは文政4年(1821)でした。3回目の国目付は文政4年5月から10月まで滞在し、領内の巡見等を行いました。



秋田城下絵図 (県C-179)



御国目付御用日記 (県A131)

嘉永の国目付

弘化３年(1846)９月９日、十代藩主佐竹義厚は江戸で死去、十一代藩主義睦は八歳でした。十二代将軍徳川家慶は、国目付として青木新五兵衛と本多主税の派遣を命じました。秋田を訪れた４回目の国目付は、嘉永２年(1849)閏４月から10月まで滞在し、領内の巡見等を行いました。

横手御城下絵図 (県C-23)

御国目付御下向御取扱記録(AS312-41-5～8)

主な展示資料

◎元禄の国目付

○国目付角館巡見二付心得形被仰渡　(AK312-19)
○国目付角館巡見二付心得形被仰渡　(AK312-20)
○角館内町外町之絵図　(県C-94)
○大館御城下絵図　(県C-189)
○義格家譜　上　(AS288-1-18)
○国典類抄　前篇賓部　(AS209-173)

◎宝暦の国目付

○国目付下向二付触書　(AK312-37)
○御城下絵図　(県C-599)
○横手城絵図　(県C-24)
○義敦公譜　仁　(AS288-1-24)
○国典類抄　後篇賓部　(AS209-174)
○御国御目付下向に際しての注意覚　(菊-678)

◎文政の国目付

○御国目付御取扱方思食（御条目）　(AO317-61)
○義厚公譜　丙　(AS288-1-41)
○秋田久保田城絵図　(県C-166)
○秋田城下絵図　(県C-179)
○御国目付御下向記録　(AS312-41-1～4)
○御国目付御下向之節被指上候
御絵図郷村石付帳を始其外品々
御伺之次第有之二付江戸詰御留守居
関口半八田中伊織江致文通候控　(県A-115)
○御国目付御用日記　(県A-131)
○御国目附丹羽五左衛門殿之御書
御案文写　(AS209-122-1)
○文政四年御国目付下向二付諸向
被仰渡扣　(29-161)
○御国目付衆御用日記　(25-33)
○御目付様御使番丹羽五左衛門様
御番方三浦甚五郎様御下向大館
御城御巡見御取扱記録　(AO312-42)
○古来勤書御国目付　(AS312-8-1)

◎嘉永の国目付

○横手御城下絵図　(県C-23)
○大館御城絵図　(県C-196)
○秋田御城絵図　(県C-195-1)
○御国目付御下向御取扱記録　(AS312-41-5～8)
○御目附様御用記録　(AO312-47)
○御国目附青木新五兵衛様本多
主税様御下向之節御小姓二而
係被仰付勤方記　(A312-72)
○御国御目付御用金銀米銭纏　(AS342-51)
○古来勤書御国目付　(AS312-8-2)